

みんなの広場



▲特設ステージで特選再生家具頒布会が行われるなど、地球にやさしい暮らし方を体験した「第5回エコまつり」
5月1日(火)／リサイクルふれあい館・エコ



▲カットやパーマ、ヘアセットなど11種類の部門で、埼玉県内代表の理容師が、日ごろの技術を競い合った「第42回埼玉県理容競技大会」
5月15日(火)／市民体育館 (撮影/市民カメラマン・松崎 満)

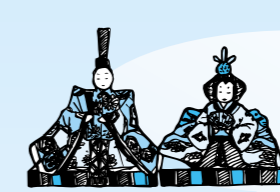


▲すがすがしい日ざしの中、市内12か所の会場で、101チームが参加して熱戦が繰り上げられた「市民体力つくりソフトボール大会」
5月13日(日)／北中運動場



▲初夏の訪れを感じさせる「新茶まつり」では、手もみ茶の実演が行われ、訪れた皆さんに、おいしい新茶がふるまわれました。
4月24日(火)／市役所西口広場

みんなのギャラリー



歴史再発見 ところざわの文化財



山口観音の絵馬〜観音筆煙草屋図大絵馬〜

絵馬とは、神社・寺院などに祈願や御礼のために、馬やそのほかの絵を描いて奉納したものをいいます。絵馬の起源は奈良時代までさかのぼります。馬は神の乗り物として神聖視されていたので、祈願のために生きた馬が神馬として献上されていました。それが次第に木や土で作った馬の像で代用するようになり、さらに簡略化されて板に描く絵馬へとなっていました。



室町時代には、馬以外の絵も描かれるようになり、武者絵や祭礼、歌山の図などの題材も見られるようになりました。江戸時代になると、家内安全や商いの繁盛を祈願したものなど、多彩な絵馬が奉納されるようになりました。上山口にある金葉院山口観音の本堂には、近隣の地域から数多くの絵馬が奉納されており、そのうち3点が市の指定文化財となっています。中でも「観音筆煙草屋図大絵馬」(写真)は、江戸時代後期の煙草屋の情景を通して当時の人物や風俗がうかがえ、興味深いものがあります。

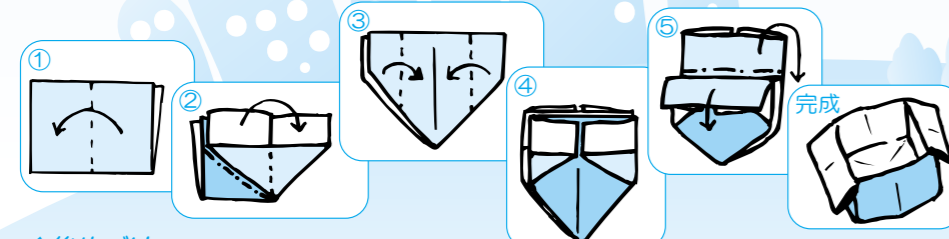
画面の墨書によると、武州入間郡所沢村の七五郎を始めとする6人が、観音という絵師に依頼して、文化2年(1805)に奉納したものと考えられます。題材は、煙草屋の店先を描いたもので、人物や風俗はいずれも当時の江戸市中のものと思われるが、軒先の白く染め抜かれた暖簾には「所澤」という文字が書かれており、所沢の店頭風景もこのように繁盛するようとの願いを込めて描かれたと推察されます。その情景は浮世絵風に写實的に表現され、当時の風俗を目の当たりに見るようです。

試して楽エコ!!

～台所でエコ! ちょっとした工夫で～

私たちの食生活と環境問題は、深い関わりがあるのを知っていますか? 買い物・料理・後片づけは、それぞれの場面で環境にやさしい工夫ができます。ちょっとしたひと工夫がエコライフにつながります。皆さんもできることから試してみてください。

- ◆**買い物** ～旬の食材や地場産のものを選びましょう～
 - 旬の食材を上手に使った献立を考えてみましょう。旬の食材は、おいしく栄養価に優れ、豊富に出回っているため入手しやすく経済的です。夏の野菜…いんげん豆、サラダ菜、かぼちゃ、なす、オクラ、トマト、きゅうり、とうもろこしなど
 - ◎地場産野菜は輸送エネルギーも少なく、すぐに店頭に並ぶため新鮮です。
 - ◆**調理** ～効率のよい作業で水やエネルギーを大切にしましょう～
 - 野菜はたわいで洗い、汚いところだけ皮をむきましょう。
 - 皮はなるべく薄くむき、有機野菜はできるだけそのまま使しましょう。
 - 材料は、同じ大きさに切りそろえ、火の通りがよく味が染みやすい工夫をし、食べ残しをしないように、食べる分だけ作りましょう。
 - 水分を切るなどして、生ごみは上手に処理しましょう。
- チラシでつくる簡単ごみ入れ(作り方) キッチンやテーブルの隅に置いておく便利な、そのまま捨てられる簡単ごみ入れを作ってみましょう。



- ◆**後片づけ**
 - 洗いのものを減らす工夫をし、洗い桶などを上手に使い、なるべくつけ置き洗いや、水をためてすすぎましょう。
 - いつでも効率よく作業できるように、調理器具は整理整頓しましょう。
- 問い合わせ リサイクルふれあい館・エコ (☎2994-5374・FAX2994-1118)

皆さんからの投稿をお待ちしています!

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『旬のもの』▶文章は添削あり▶締め切りは6月7日(木)必着▶掲載者には記念品を進呈
◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール(アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。

はっつらっつ 野老っ子

所沢の里芋は、全国第2位の生産量を誇り、その味と品質はトップクラスなのをご存知ですか?今回は、所沢の誇る里芋を原料として完成した里芋焼酎『恋も咲くところ』の商品化に携わったひとり、梶谷さんをご紹介します。

梶谷さんは、所沢で生まれ育ち、現在も市消防団第3分団の分団長をしたり、市無形文化財『重松流祭り囃子保存会』日東支部に所属したり、幅広い活動を通じて所沢をこよなく愛する、情熱あふれる“ところっこ”です。

そんな梶谷さんが2年前、里芋の収穫後に残った出荷されない親芋が所沢の農家にあることを知り、この里芋で所沢をアピールする商品ができないかと考えたのが里芋焼酎作りのきっかけでした。

そこで、ご自身も所属する所沢商工会議所青年部で、この里芋を生かした新商品の検討を始めました。「里芋を使ったらどんやパン(右写真)、里芋アイスも作ったが、どれも里芋の特徴は出せなかった」と生みの苦しみを語ります。試行錯誤するなか、平成16年11月に、生産農家やJAいるま野、酒販組合などの協力を得て、里芋



里芋焼酎「恋も咲くところ」に酔って、所沢自慢 梶谷 和義さん(南住吉在住)

焼酎を作ることが決まり、本格的に焼酎作りがスタートしました。しかし、現実課題も多く先に進めません。芋焼酎本場の九州でも試作品を作ってもらえず、実際に里芋で焼酎ができるのか、協力してくれる酒蔵はあるのか、と不安を感じた梶谷さんは、インターネットで作り方を調べて研究してみたそうです。

昨年ついに、長野県内に協力してくれる酒造会社が見つかり、早速その酒蔵で10月に仕込み、本年4月に見事完成(下写真)。

出来栄も良く「この焼酎が可愛くてしょうがない」と自信を持って完成した焼酎への思いを語る梶谷さん。「今年は完売し大成功!今回飲めなかった方も、来年の4月を楽しみに待っていてほしい」と次の完成へ向けて意欲的です。

たくさんの方の想いで作られた里芋焼酎『恋も咲くところ』で酔いながら、所沢自慢を生み出す梶谷さんの活躍に、今後も期待を寄せたいと思います。



▶完成した里芋焼酎 試作品の里芋パンが焼きあがって

一人旅

若狭・井上 美恵子

最近、久しぶりに感動する歌に出会った。「私もこの世にいないけれど悲しまないでください。朝は鳥になり、夜は星になり、きらめく光や千の風になって大空を吹き渡り、いつもあなたを見守っています」とそんな内容の歌である。

身近な人や愛するものを失った悲しみの歌は数限りなくあるが、亡くなった人から遺族や友人を慰めるメッセージの届く歌は数少ない。逆転発想の境地から作られた壮大な詩とメロディに、秋山雅史さんのテノールが融合し、まさに「千の風になって」心に引き寄せられる。

悲しみを乗り越え、一歩を踏み出す小さな勇気も、明日への希望をつなぐ励ましの心も、この歌はしっかりと伝えてくれる。

心に響く歌

北岩岡・大野 喜久子

太平洋戦争が激しさを増し、学童は強制疎開が行われた。国民学校の一年坊主になったばかりの私は、両親に甘えたいころだった。6人兄弟とも別れ、父に連れられ母の兄が住む千葉へ移った。伯父の家では伯母と私の3人で生活し、とてもかわいがられた。それでも夕方になるとさみしさがつのった。夕食のとき、ラジオからは「小さな杉の子」の女性の歌声が聞こえていた。「今に見ている僕だって…」という歌詞は、親兄弟から一人離れ、遠くにいるさみしい自分の境遇に勇気を与えてくれたようだった。

夕方にラジオから聞こえる歌は、身にしみて、心にも元気を注いで一人を鼓舞していた。

戦時中のラジオかい

和ヶ原・田中 隆清



誰でもエッセイ「心に響く歌」